

(2010-18-おおきなかぶ)

## O nabo gigante

Adaptado por Leo Tolstoy, traduzido por Risako Uchida,

ilustrado por Churyo Sato, Ed. Fukuinkanshoten

『おおきなかぶ』トルストイ 再話 内田莉莎子 訳

佐藤忠良 画 福音館書店



O velhinho plantou nabo.

Nasceu um nabo gigante, doce e fresco.

Para puxá-lo da terra, o velhinho chamou sua esposa.

Ela chamou sua neta, que chamou seu cachorro.

Ele chamou gato da casa, que chamou rato.

Empurrando juntos, assim, saiu o nabo gigante.

Quando puxavam, falavam “UNTOKOSYO, DOKKOISYO”.

As crianças gostam de ouvir a estória, dizendo “UNTOKOSYO, DOKKOISYO”.

TOKYO CHILDREN'S LIBRARY 公益財団法人東京子ども図書館

在日日系ブラジル人の子どもたちへの読書支援活動

子どもたちに本を贈るプロジェクト/ポルトガル語解説文

### ●ポルトガル語和訳

おじいさんが、かぶをうえました。

甘い、元気の良い、とてつもなく大きいかぶができました。

このかぶを引き抜こうと、おじいさんは、おばあさんと呼んで、おばあさんは、孫娘と呼んで、孫娘は犬と呼んで、犬は猫と呼んで、猫はねずみと呼んで、やっとかぶが抜けるというお話です。

「うんとこしょ どっこいしょ」と掛け声をかけながら、かぶを抜こうとします。

子どもたちは、この掛け声をかけながら、読み進むのが大好きです。